

むくみに使われる漢方薬

先日臨床ニュースの m3.com (2025年11月14日) の記事を見ていた時の内容になります。

1) むくみ(浮腫)に利用される漢方薬

m3.comの医師会員945人に「浮腫」に対して漢方薬を処方するかのアンケート調査(2025年)を実施したところ、49.6%(469人)が「はい」と回答したそうです。実に**半数の医師**が浮腫に対して漢方薬を利用していることになります(この調査は会員医師限定なので全国的にどうかは不明です)。「はい」と回答した医師が浮腫に利用する漢方薬は利用順に以下のようになっています(複数選択)。

- | | | |
|----------|-------|------------------|
| 1. 五苓散 | 86.1% | (2023年調査: 84.6%) |
| 2. 防己黄耆湯 | 16.0% | (2023年調査: 16.3%) |
| 3. 猪苓湯 | 11.9% | (2023年調査対象外) |
| 4. 当帰芍薬散 | 10.9% | (2023年調査: 17.3%) |
| 5. 防風通聖散 | 10.2% | (2023年調査: 17.3%) |
| 6. 八味地黄丸 | 9.4% | (2023年調査対象外) |
| 7. 真武湯 | 4.5% | (2023年調査対象外) |
| 8. その他 | | |

2023年と2025年の調査を通じても2位の防己黄耆湯を大きく引き離して**五苓散が最も多く**利用されていることが分かります。処方箋を応需する皆さんも同じ感想を持たれているのでしょうか?

2) 五苓散を利用する理由など

アンケートに回答した医師の意見は下記のように様々な意見があります(診療科にも注目を)。

1. 水のコントロールでは五苓散を第一選択(耳鼻咽喉科医師)
2. 浮腫程度で利尿剤を出すのは最大の悪手、五苓散がちょうど良い(呼吸器科医師)
3. 五苓散はもっとも効果が期待でき多くの患者で浮腫軽減の経験あり(消化器外科医師)
4. 脳神経外科で脳梗塞・脳出血患者での脳浮腫に五苓散が処方され内科で継続処方(腎臓内科医師)
5. 五苓散は体内の余分な水分排出に効果あり、通常利尿剤に比べ作用がマイルドで長期使用に耐える(消化器内科医師)
6. 天気痛も脳の浮腫からくるので五苓散を処方(整形外科医師)
7. 心性浮腫には五苓散、静脈性浮腫には桂枝茯苓丸、リンパ浮腫には柴苓湯、夜間頻尿を伴えば牛車腎気丸、変形性膝関節症を伴う人には防己黄耆湯、痩せたい人には防風通聖散と使い分ける。漢方薬を使うだけではだめで貧血・甲状腺機能低下のチェック、心性浮腫にはARNI、腎性浮腫にはSGLT2阻害薬の併用、一番大事なのは弾性ストッキングによる圧迫療法を併用すること(外科系医師)

3) 五苓散の漢方医学上の特徴

まず私が持つ漢方薬関連書籍から五苓散(茯苓、猪苓、沢瀉、白朮、桂枝)の特徴を記してみましよう。

1. 傷寒論解説(大塚敬節著1976年第8刷)から

『太陽病……。若し脈浮、小便利せず、微熱、消渴の者は五苓散之を司る』→太陽病に初期治療をした。しかし脈が皮膚表面で強く感じられる状態で小便があまり出ず微熱があり口渇が激しい者は

表に邪が残存し裏に水が停滞しているから表の熱を散じ裏の水をさばいてくれる五苓散が適する。

2. 漢方処方解説（矢数道明著 1974 年第 7 刷）から

多くが裏(胃腸)に停水があり、表になお熱がある状態に適する。猪苓を主薬とする。

☛ 皆さんもご存じかもしれませんが二日酔いの時に冷服すると良いとされています。

3. 中医処方解説（山本巖ら監修 2007 年第 16 刷）から

悪風・微熱・尿量減少・口渇するが水分を飲むとすぐに嘔吐するなどの症状(水湿表証)に適する。五苓散は**利水作用**の茯苓、猪苓、沢瀉、白朮と**通陽**の桂枝で構成される。

☛ 通陽とは気の巡りを良くして体を温め表の邪を発散し、かつ冷え、むくみを改善する作用。

4. 症例から学ぶ和漢診療学（寺澤捷年著 1994 年第 5 刷）から

証は少陽病期・水滯型、虚実間証で熱性の水滯と気逆の症状を伴う。口渇、尿量減少、嘔吐、下痢が主徴となる。浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う。体力のいかに問わず口渇ならびに尿量減少を主目標として使う(主徴、伴う症状、目標の一部に共通する症状あり)。

以上から五苓散は**表に熱証を伴い、かつ体の内部に水の貯留を認める**場合に利用される漢方薬と言えますが 2) 項にあるように一般には水の貯留(浮腫)を目標にして利用される場合が多いようです。

4) 五苓散の利水作用の機序とは

ここからは主に寺澤捷年著「和漢診療学あたらしい漢方 2015 年第 1 刷」からの引用になりますが五苓散による脳浮腫改善効果の記事があります(135 ページ)。脳内への水分の出入りは水チャネルであるアクアポリン(AQP)が担っていますが脳の一部が損傷した場合は水分の移動が脳内への一方向になり脳浮腫が発生してしまうとされます。五苓散はその**AQP を阻害**するように働き、脳内への異常な水分移行を抑制して脳浮腫を改善するという機序をもつというわけです。さらに著書の中で引用された資料(磯濱洋一郎 東京理科大学薬学部教授)によると全身に 13 種類存在する AQP の亜型の中でも血液脳関門に多く発現している **AQP 4** への五苓散による阻害が脳浮腫の改善に役立っているとしています。

さらに五苓散の中で利水作用に働く茯苓、猪苓、沢瀉、**白朮**の中で**蒼朮**エキスが AQP 4 に対する強い阻害作用を認めたそうです。ところで磯濱教授の研究では白朮の代わりに**蒼朮を含む五苓散**を用いていますが 3) に示した私の蔵書の中では 1~3 が白朮で紹介、4 が蒼朮で紹介しています。白朮はキク科オケラの根茎、蒼朮はキク科ホソバオケラの根茎になります。両者ともに気を益す作用と過剰な水を去る作用(利水作用)がありますが私の大学病院薬剤部時代には蒼朮の方が白朮より利水作用が強いと教えてもらいました。また随分前になりますが五苓散エキス剤の**朮**の違いを調べた際に**白朮**を利用するメーカーは**9 社**(付け加えるならば富山医科薬科大学病院時代の煎じ薬の約束処方も白朮)、**蒼朮**を利用するメーカーは**4 社**で圧倒的に白朮を利用するメーカーが多い結果が出ていました。元々は白朮で構成された五苓散が長い漢方治療の歴史の中で蒼朮の方が良いという医師が現れて**蒼朮派**が一定数出てきたのかもしれませんが。確かに利水効果を求めるのであれば蒼朮が良いと個人的には思っています。

5) 利水作用と利尿作用の違い

これまで利水作用とだけ記してきましたが、似たような作用に**フロセミド**などの薬理作用である**利尿作用**があります。利尿作用は血液の中にある水分だけを腎臓を通じて体外へ排出する作用になりますが血管に隣接した組織内に貯留した水分(たとえば腹水等)への効果は限定的とされています。一方の**利水作用**は浮腫状態では利尿作用、脱水状態では抗利尿作用を発揮する**体内の水分代謝異常を調整**する作用として理解されています。たとえば**フロセミド**の動物実験では**絶水状態でも浮腫状態でも尿量が増える**のに対して**五苓散は浮腫状態でのみ尿量が増える**ことが示されています。この違いは五苓散の AQP への阻害作用で説明がつくというのが磯濱教授の研究結果になります。で、2) 2. の浮腫程度(どの程度かわかりませんが)で利尿剤を出すのは最大の悪手との医師の感想も理解できるかも? です。(終わり)